

0歳～6歳も心地いい！笑顔が増える園舎！ 子どもを伸ばす「空間」づくり

Monthly PickUp
完成！合体！高島幼稚園と北保育園

町が考える 子どもたちを伸ばす園舎①

思い思いの過ごし方ができる
幼稚園と保育園の共有空間を創る



職員室

幼稚園と保育園の職員が共有して使用する職員室。一体となる園舎だからこそ職員間のコミュニケーションは大切です。



遊戯室

群馬県産木材の大きなはりが目立つ広い遊戯室。発表会としての利用はもちろん、普段の運動から「ごっこ遊び」まで使い方は無限大。



廊下

教室の延長として使うことのできる、幅約2.7mの直線で長い廊下。平成26年度に改築した長柄幼稚園と同じく「から拭きごっこ」は大人気。



高島幼稚園 <<<

施設や園庭を共同で活用します。総面積は1,885.57㎡にもなります。幅広い年齢層や少し異なった環境で生活し交流する機会が増えることは、幼稚園や保育園に通う子どもたちにとって、大きな刺激になります。

>>>北保育園

保育室

仕事などで保護者と一緒にはられない子どもにとって、保育園は日中の多くの時間を過ごす場所。そのため、保育園舎ではあえて一般住宅で使われる工法を使い、内装もより家庭環境に近いシンプルな造りになっています。新たに造られた乳児室は、トイレスペースを含め全面床暖房です。



調理室

衛生管理に注意を払った広くてきれいな調理室。子どもが口に入れる食品を扱う場所だからこそ、細心の注意が必要です。食品の調理段階ごとに汚染区分を分けた部屋で衛生管理を行います。



瓦屋根

保育園らしく温かみのある瓦造りの屋根。教育施設である幼稚園に対し、保育園は第2のお家です。外観は可愛らしさを残しながらも、家庭的な仕上げになっています。



Interview

高島幼稚園に通うはちゃんの保護者
澁澤 絵里さん (石打・20区)

木材がたくさん使われている建物からは温もりを感じます。高島幼稚園は他の園に比べて子どもの人数が少ないけど、年齢・クラスの垣根を越えた保育をしてくれているように思います。部屋が中でつながっている教室もあるなど、園全体としての一体感を感じます。北保育園と園庭が一緒になってから新しい友達ができたといいです。

年齢・クラスの垣根を越えていつも元気な高島幼稚園
面積1,077.46㎡の木造平屋建て。職員室や遊戯室など、園児と職員の両方が共有して使う部屋や設備などが集まっています。群馬県産木材をふんだんに使用し、柱やはり、床など、木の質感や温もりを感じられる造りになっています。最長約30mの廊下では、から拭きごっこが大人気で、手や足の力を鍛えるスペースとしても大活躍です。また、屋根には太陽光発電をするためのパネルが設置してあり、発電量や削減された二酸化炭素の量などが分かります。園児たちが環境問題について身近に学べるようになっています。

Interview

北保育園にまよくんを預けている
新井 仁美さん (谷中蛭沼・11区)



子どもが「広くなったよ」「赤ちゃんもいるんだよ」って、話をしてくれます。園舎が新しくなって、うれしいみたいです。私も通った旧園舎には自然がたくさんありました。その中で、子どもたちは虫を取ったり木に登ったりする遊びを伸び伸びしていたように思います。新園舎にも遊具や樹木が整備されていくことを期待しています。

家庭の雰囲気大切に0歳児保育開始の北保育園
面積808.11㎡の木造平屋建て。新たに乳児室を備え、0歳児からの保育ができるようになります。保育園は自宅に代わる生活の場です。一見シンプルな内装には、生活に必要な知識や行動が身に付くような工夫がたくさんあります。例えばトイレ。洋式トイレに加えて、小学校進学後や外出先でも和式トイレが使えるように、練習用の和式トイレを設置しています。また、水道も自動水栓をはじめ、バルブ式などさまざまなタイプのものを設置。第2の家である保育園は、生活に必要な経験ができるようになっていきます。

